

『日に新たに』 令和8年度 校長室便り (9月25日) (第13号)



「Connecting the dots」という考え方

大人の人に「小さい時からその仕事に就きたいと思っていたんですか？」と尋ねた時に「いいえ」と答える人は、全体の約8割だと言ったのは、米のジョン・D・クランボルツという心理学者です。意外な気がしますよね。実は私も「いいえ」です。

米アップル社の創業者スティーブ・ジョブズは、2005年スタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチで「Connecting the dots」という話をしました。「点(dot)と点をつなげる(connect)」という意味です。彼は、「未来を見て点をつなぐことはできないが、過去を振り返って点(経験)をつなげることはできる」という話をしました。今やっていることが将来どう役に立つのかは誰にもわかりませんよね。でもある時振り返った時に、過去に経験したこと(dot)がつながって、今の自分があることに気付くわけです。だからこそ、今自分が興味を持ったことや新しいことに積極的に挑戦して、経験という「点(dot)」をたくさん作っておくことが大切なのだと思います。

「垂水市さわやか挨拶運動」



9月17日(木) 新旧生徒会役員が中心となり、朝の挨拶運動を行い、通勤する地域の方や登校する小学生にも積極的に声をかけていました。今後も定期的に実施できれば校内の雰囲気も明るくなり、いじめや問題行動の防止にもつながります。挨拶をすることで「する側」も「される側」も前向きな気持ちになれますよね。今後に期待したいと思います。

実は、皆さんが登校する前に、毎日教頭先生が校門付近を掃除されていて、いつもきれいな状態で皆さんを迎えています。挨拶運動もそうですが、社会はいつもこのような善意で支えられて成り立っています。ぜひ「する側」になりたいですね。

「総合的な探究の時間」 出前授業



「総合的な探究の時間」に3年生が垂水市の下水環境の改善に向けて研究しています。9月16日(水)は、公益財団法人鹿児島県環境保全協会から職員4名に來校していただき、2時間の出前授業を実施していただきました。高校で行う出前授業は初めてということでした。

最初に下水管理状況や浄化槽の仕組み等について講義を受け、高価な浄化槽の実験機を用いて、実際に下水が様々な行程を経て、処理水に変わっていく様子を間近で見ることができました。

専門家の意見を聞き、どういう方向性で研究を進めていくのか、最後は活発な議論がなされたようです。今後は、垂水市の下水環境の調査と分析を行い、効果的な下水処理の方法を長崎総合科学大学と共同研究することになっています。非常に楽しみです。

令和8年度「進路出発式」



9月14日(月) 令和8年度「進路出発式」を実施しました。3年生を代表して、山田さんが「夏休みの審査会を通してそれぞれが自分の進路に向けて準備を進めてきました。本番に向けて最後まで諦めず頑張ります」と決意表明を述べると、1・2年生を代表して、濱脇さんが「これまで先輩方が努力している姿を見てきました。本番で100%の力が発揮できるよう応援しています」と激励の言葉を述べました。

初任者に想定年収1,400万円の給料を出す「霞ヶ関キャピタル株式会社」のホームページを見ると、「トップタレント選考」の入社試験では「これまでの取り組みの中で、あなたが胸を張って日本一といえるものをアピールしてください」そして、「当社で何をしたいのか、挑戦したいテーマは何かを含めてください」と書いてありました。

3年生の皆さん、何も遠慮する必要はありません。本番では自分の中で誰にも負けない部分は何なのか、そしてその会社や大学・短大・専門学校で何に挑戦し、何を学びたいのかを明確に伝えることが大切です。また、緊張を軽減するには、自分に自信がつくまで、納得できるまで準備をすることが大切です。

垂水高校の生徒・職員一同、皆さんの健闘を祈っています。頑張ってください。

「校内ビブリオバトル大会」



9月15日(火) LHRを利用して各クラスで「校内ビブリオバトル大会」を実施しました。人数の多いクラスはグループごとで行い、少ないクラスはみんなの前で発表していました。紹介する本も絵本から小説、好きなスポーツ選手の自伝や科学の本等、三者三様で面白かったです。

人の読む本の趣味や傾向は、偏りがちなので、異なったジャンルの本を紹介してもらえる機会は貴重ですよ。

「ネタバレになるけどいい?じゃ話すよ」という声も聞こえてきて、つい耳をそばだててしまいました。級友のことを深く知るよい機会となりましたね。

「生活デザイン科 出前授業」



9月16日(水) 第一幼児短期大学の中村佳代子教授を講師に招いて、2年2組生活デザイン科の「幼児教育」リトミックに関する出前授業がありました。生徒を幼児に見立てて、先生からいろいろな手法を学びました。

「どうして指遊びを取り入れるかわかりますか?」という問いに生徒からは「子どもの脳の発達を促すためです」という答えがしっかりと返ってきました。さすがです。

最初は恥ずかしがっていた人も、音楽に合わせてカニさんや忍者、お相撲さんになりきって身体を動かしていました。将来の選択につながる楽しい出前授業となりました。